

あしあと

元農業生物資源研究所 栗林茂治 加藤弘

安政元年（1854）の開港以来、日本の近代化と経済発展を主導してきた蚕糸業は、先人たちによって桑、蚕、病理、養蚕、製糸において立派な研究成果がたくさん生み出されてきました。その我が国の蚕糸関係研究機関の中核として常に蚕糸研究をリードし、波乱に満ちた蚕糸業の技術開発や改良に尽力してきたのが農商務省原蠶種製造所として明治 44 年（1911）5 月に設立された以来、改組を重ねてきた原蠶種製造所→蚕業試験場→蚕糸試験場→蚕糸・昆虫農業技術研究所です。

現在の農業生物資源研究所大わし展示室倉庫に収容されている資料とパネルは、蚕糸科学技術と昆虫産業一筋に邁進し貢献してきた大いなる足跡を深く印象づける幾つかの貴重なものが含まれているはずです。未来に引き継いでいくべき人類共通の宝物として守っていく価値のあるものもたくさんあります。旧富岡製糸場が 2014 年 6 月 21 日、カタール・ドーハ会議で世界文化遺産記載が決定しました。ハード（建物）とともに、ソフトともいうべき蚕糸科学技術の発展と進歩の証しである資料やパネルは大切に保存保管し、広く展示していただきたいと思います。

蚕は日本という風土の中ではるか昔から人の心をとらえ、人に自然の営みのなんたるかを教えてきた。人は蚕とともに絹をつくり、その文化を育くんできた。蚕ならびに蚕糸業を現社会の経済性に合わない、などの理由で日本から失くしてしまってはならない。われわれ日本人にとって蚕はただの虫ではなく、世界に誇る、世界から尊敬されるかけがえのない文化財であり、歴史の証人なのだから。いつまでも人々に蚕糸の大いなる足跡が忘れられることのないようにと願うものです。